

イノシシの保護・管理の方向性 (現状と課題・本研修会の目的)

(一財) 自然環境研究センター
小林 喬子



内容

1. イノシシの保護・管理の現状
ー保護管理の目標/目標捕獲数の設定
2. イノシシの保護管理の主要課題
ーイノシシの特性の理解/適切な捕獲
3. PDCAサイクルに基づく保護・管理
4. モニタリングの状況 (捕獲個体)
5. 分布拡大初期の対応
6. 生息状況に応じた対策/役割分担
7. 保護管理のための連携
8. 指定管理鳥獣捕獲等事業

特定計画の三本柱

個体群(数)管理

生息地管理

被害管理(防除)

柵の設置: 侵入防止

捕獲: 加害個体の除去

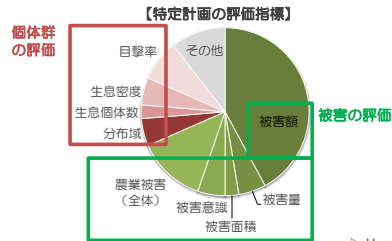
環境整備: 農地周辺の緩衝帯整備など

イノシシの保護・管理の現状

保護管理の目標: 農作物の被害軽減

管理目標: 被害に係る指標 (被害額・被害量など)

生息頭数・生息密度は農作物被害と相関低い



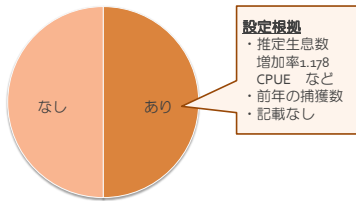
> H24保護管理レポート (P.2-3)

イノシシの保護・管理の現状

目標捕獲数の設定:

推定生息数・前期計画期間中の年間捕獲数を基準

【目標捕獲数の設定の有無】



> H24保護管理レポート (P.2-3)

イノシシの保護・管理の主要課題

- ◆ イノシシ個体群管理の方針が明確でない
- ◆ 保護管理の目標設定の考え方を修正することが必要
- ◆ 保護管理の目標達成のための実施状況評価が難しい
- ◆ 保護管理を推進するための連携が図られていない
- ◆ 施策実施のための体制作りが十分に進んでいない
- ◆ モニタリング調査が不十分

(H24イノシシ保護管理検討会)

イノシシの保護・管理の主要課題

- ◆ 保護管理の目標設定の考え方を修正することが必要
 - 推定生息数を把握する手法が未確立
 - 個体数の季節変動・年変動が大きい
 - 被害と生息密度の相関が低い

イノシシの特性を理解した対策の必要性

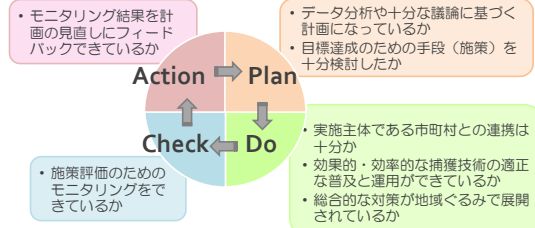
『農作物被害軽減』を目的とする捕獲の考え方
農地周辺における捕獲の計画内での位置づけ

➢ H24保護管理レポート (P.2-3)

PDCAサイクルに基づく保護管理

各ステップで指摘されている課題を確認しながら計画を推進する必要がある

【PDCAサイクルと各ステップにおける課題】

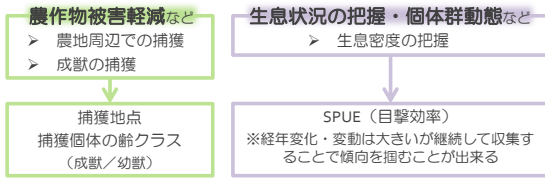


➢ H24保護管理レポート (P.4)

イノシシの保護・管理の主要課題

- ◆ 保護管理の目標達成のための実施状況評価が難しい
- ◆ モニタリング調査が不十分

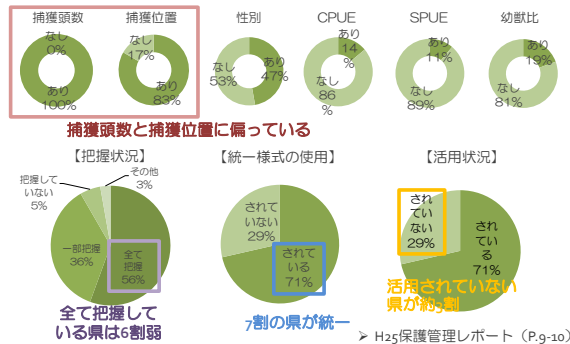
モニタリングにより施策が適切に
運用されているか評価する必要がある



➢ H25保護管理レポート (P.3-4)

モニタリングの状況（許可捕獲）

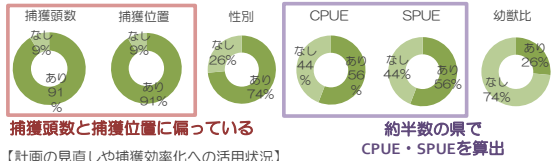
【収集している項目】



➢ H25保護管理レポート (P.9-10)

モニタリングの状況（狩猟）

【収集している項目】

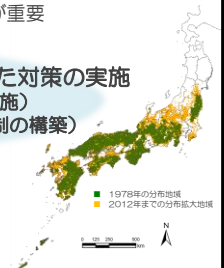


➢ H25保護管理レポート (P.7-8)

イノシシの保護・管理の主要課題

- ◆ イノシシ個体群管理の方針が明確でない
 - 分布拡大地域への対応が不明確
 - ・ 多雪地域・半島部・島嶼部等への分布拡大が発生
 - ・ 侵入初期段階での適切な対処が重要

迅速な現状把握・生息状況に応じた対策の実施
(早急で適切な被害防除の実施)
(適切な捕獲実施のための捕獲体制の構築)



➢ H26保護管理レポート (P.7-8)

分布拡大初期：現状把握

- ◆ 最新の情報を、迅速に収集することが重要
 - イノシシの痕跡を識別できる人材の育成
(研修会の開催、回覧板・パンフレットなど)
 - 情報収集システムの構築
(多様な関係機関の連携による連絡体制の構築)



千葉県東隅農業事務所
普及だより第52号
(<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-ismi/sumi/jukyudayori.html>)

➢ H26保護管理レポート (P.9-10)

生息状況診断と適切な対応

- ◆ 地域の生息状況に合わせた適切な対応を行うことが重要
 - 侵入初期から分布情報や捕獲情報を収集
→ 侵入段階に応じた対応をとることが効果的



(千葉県イノシシ対策計画より抜粋)

➢ H26保護管理レポート (P.11-13)

生息状況に応じた対策と役割分担

- ◆ 生息状況に合わせた適切な対応を行うことが重要
 - 侵入初期から分布情報や捕獲情報を収集
 - 侵入段階に応じた目標設定および対応をとることが効果的

【千葉県の事例】

侵入段階	管理の目的・対応および役割分担
0	侵入した場合を想定し、排除を目的とした捕獲体制の整備
1	侵入の防止（排除） → 生態・痕跡の普及（県・市町村）／モニタリング（県・市町村）／担い手確保（県・市町村）etc.
2	分布拡大の制御（低密度維持／一定地域からの排除） → 被害拡大防止のための捕獲（県）／有効な捕獲手段の普及（県）／捕獲体制の整備（市町村）etc.
3	密度管理（被害が許容できる密度に抑制） → 加害個体の捕獲（市町村）／有効な捕獲手法の普及（県）／捕獲体制の整備（市町村）etc.

➢ H26保護管理レポート (P.11-13)

イノシシの保護・管理の主要課題

- ◆ 保護管理を推進するための連携が図られていない
- ◆ 施策実施のための体制作りが十分に進んでいない
- ◆ 特定計画を策定する都府県と施策実施主体の市町村の連携
 - ・ 鳥獣部局と農林部局の連携
 - 被害防止のための総合的な取り組みが重要

➢ H24保護管理レポート (P.8-9)

連携強化に向けた具体策の例

- ◆ 連絡会議の開催
→ 都府県の環境部局・農林部局・市町村担当者が一堂に会し両計画を推進するための情報共有・整合性を図る
- ◆ 役割分担の明確化
→ 各都府県内で、複数部局にまたがる予算や人材を集約し適切な役割分担のもと、一体的に対策を実施する



➢ H24保護管理レポート (P.8-9)

指定管理鳥獣捕獲等事業

- ◆ 指定管理鳥獣：イノシシ
- ◆ 都府県が捕獲およびそれに関する調査を実施
- ◆ これまで許可捕獲が実施されなかった地域での実施が可能
→ 分布拡大地域などの低密度地域
- ◆ 市町村をまたいだ捕獲事業の実施が可能
- ◆ これまでの有害鳥獣捕獲との棲み分けの必要性
- ◆ 関係機関との調整・合意形成が必要

イノシシの『特性に合わせた』事業制度の『適切な運用』により計画目標を達成

各講義の位置づけ

【講義1】鳥獣行政に関する最新情報

- ー抜本的な鳥獣捕獲強化対策、鳥獣法改正について

【講義3】イノシシの生態と行動特性への理解を深める

- ーイノシシとシカの違い
- ーイノシシの特性を理解したうえでの適切な防除、捕獲の実施

【講義4】イノシシの行動様式と捕獲について

- ー被害地周辺における捕獲の必要性
- ー加害個体の捕獲
- ーイノシシにおける捕獲とは

【講義5】個体群動態特性を利用した管理方法について

- ー生息状況に応じた対応 分布管理と密度管理

【ワークショップ】指定管理鳥獣捕獲等事業実施に向けて

- ー事業実施に当たり関係者間の合意形成に焦点をおく
- ー都府県、市町村の相互の情報・課題の共有をする